

# 科学教育研究レター



## 目次

■ <b>理事会だより</b> .....2	■ <b>国際交流委員会だより</b> .....21
学会彙報掲載先の変更について	国際ランチョンミーティングのお知らせ
■ <b>選挙管理委員会だより</b> .....3	国際学会参加報告 (78)
一般社団法人日本科学教育学会役員選挙・	国際学会開催情報
代議員選挙のお知らせ	■ <b>若手活性化委員会だより</b> .....25
■ <b>日本科学教育学会創立 50 周年</b>	若手研究者, 「初心」を語る
<b>記念事業企画・実行委員会</b>	■ <b>編集委員会だより</b> .....31
記念誌・シンポジウム部門	2025 年度第 2 回編集理事会報告
科学教育啓発活動・イベント部門	「科学教育研究」編集状況報告
■ <b>年会</b> .....7	■ <b>広報委員会からのお知らせ</b> .....34
第 50 回年会開催案内 (第 4 次)	
■ <b>支部・研究会だより</b> .....15	
2025 年度研究会開催のお知らせ	
■ <b>調査研究・学術交流</b> .....19	
2026 年 教科「理科」関連学会協議会	
(CSERS) シンポジウムのご案内	

## 学会彙報掲載先の変更について

今まで「科学教育研究レター」に掲載されていましたが日本科学教育学会の学会彙報のうち、理事会および合同会議の報告については本学会 web サイトへの掲載に移行します。下記の URL (QR コード) にて公開しておりますのでご確認ください (トップページの学会彙報のタブをクリック)。

URL: <https://jsse.jp/ihou>



一般社団法人日本科学教育学会役員選挙・代議員選挙のお知らせ

役員選挙管理委員会 西村 圭一  
代議員選挙管理委員会 雲財 寛

前号においてお知らせしましたように、次年度（2026年7月1日以降）の役員候補および代議員候補の選挙を実施します。

投票は専用の Web 投票サイトで行います。ログインには、①会員番号、②パスワード（会員管理システム「clara」のパスワード）が必要となります。パスワードをお忘れの方は clara にて再設定可能です。事前にご確認ください。

投票は5月7日以降、可能になります。選挙公報は投票先 URL からご確認ください。また、選挙公報は投票終了後には閲覧できなくなりますので、あらかじめダウンロードしていただきますようお願いいたします。

## 記念誌・シンポジウム部門

「科学教育研究の多様性と今後の展開」をテーマに、創立 50 周年記念シンポジウムを開催します。登壇者のみなさまから科学教育研究の現在地と課題、そして未来への展望についてご発表いただくとともに、参加者との対話を通して、学会として多様性をどのように受け止め、研究の方向性や共通基盤、さらには次世代の社会や産業の発展を支える科学技術人材をどのように育成するのかを、共に考える場としたいと考えています。

- ・ 日 時：2026 年 9 月 12 日（土）午後（150 分）
- ・ ところ：東京大学 駒場 II リサーチキャンパス
- ・ 登壇者：大島まり 氏（東京大学生産技術研究所教授）  
小川義和 氏（立正大学教授、前日本科学教育学会会長）  
田熊美保 氏（OECD 教育局シニア政策アナリスト）  
榊 太一 氏（同志社大学ハリス理化学研究所）  
渡辺 美代子（特定非営利活動法人ウッドデッキ）  
  
隅田学 氏（モデレーター）（日本科学教育学会会長）

## 科学教育啓発活動・イベント部門

一般社団法人 日本科学教育学会では、第 50 回年会において、学会創立 50 周年を記念する行事として「記念シンポジウム」「ラウンドテーブル」と「小中高生の探究発表」を開催します。

また、国際交流委員会が開催する「国際ランチョン・ミーティング」に中学生・高校生も参加できるよう企画しております。

最新情報は、年会サイト内の特設ページ <https://jsse.jp/jsseam/jsse50/jsse50th-event> に掲載します。

右の QR コードからも、年会サイト内の特設ページにアクセスできます。



会場：東京大学 駒場 II リサーチキャンパス（〒153-8505 東京都目黒区駒場 4-6-1）

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/access/>

※「ラウンドテーブル」「小中高生の探究発表」「国際ランチョン・ミーティング」それぞれ申込先、問合せ先が異なりますのでご注意ください。

### 【ラウンドテーブル】

学会員、教育関係者、一般の方、高校生、中学生が一緒になって、未来の社会をみつめ、科学と教育

について議論するラウンドテーブルです。

[テーマ] 科学と教育と多様性

[日 時] 2026年9月13日(日) 13:00~15:00

[対 象] 学会員, 教育関係者, 一般の方, 高校生, 中学生

[参加申込締切] 2026年8月13日(木) (先着50名)

ファシリテーターをしてくれる方も募集しています。申込の際に希望欄を選択してください。中学生・高校生がファシリテーターとして参加することもできます。

[参加費] 中学生・高校生(引率教員や保護者の見学を含む)は無料

学会員を含むその他の方は、ラウンドテーブルの参加申込とあわせて、第50回年会の参加申込(有料)が必要です。年会のすべてのプログラムに参加できます。

[参加費] 中学生・高校生(引率教員や保護者の見学を含む)は無料

学会員を含むその他の方は、ラウンドテーブルの参加申込とあわせて、第50回年会の参加申込(有料)が必要です。年会のすべてのプログラムに参加できます。

[問合せ先] jsse\_roundtable [アット] nacos.com ([アット]を @ に変更して下さい)

[参加申込] [ラウンドテーブル参加申込サイト](#)

### 【小中高生の探究発表】s

小学生・中学生・高校生のみなさんが、日頃の探究の成果を学会で発表する場です。年会のインタラクティブセッション(研究者や大学生・大学院生のポスター発表)と一緒に開催します。学会員のみなさまは、小学生・中学生・高校生の探究発表を聞いて、是非、コメントやアドバイスをお願いします。

[日 時] 2026年9月13日(日) 9:00~11:00

[対 象] 小学生, 中学生, 高校生

[募集件数] 合計50件(同一の学校は5件程度)

[発表形式] ポスター発表(サイズA0) ポスターを作成して、発表当日に持参してください。

[発表・参加申込締切] 発表申込: 2026年6月19日(金)

参加申込: 2026年8月13日(木)

[参加費] 小学生・中学生・高校生(引率教員・保護者を含む)は無料

インタラクティブセッションへの参加も含まれます。

引率教員・保護者が第50回年会の他のプログラムに参加する場合は、中高生の探究発表の参加申込とあわせて年会参加申込(有料)が必要です。年会のすべてのプログラムに参加できます。

[問合せ先] jsse\_presentation [アット] nacos.com ([アット]を @ に変更して下さい)

[発表・参加申込] [小中高生の探究発表 発表・参加申込サイト](#)

※小学生・中学生・高校生は年会のすべてのプログラム(9/11-13の3日間)に無料で参加できますが、教員や大人が引率してください。

### 【国際ランチョンミーティング】

年会2日目の9月12日(土)昼食時間に、国際交流委員会が「国際ランチョンミーティング」を開催します。海外からの留学生や訪問者も含め、学会員と一般参加者が、海外の学会での発表経験や国際的な科学教育研究について語り合う機会です。第50回年会では中学生・高校生の参加も可能です。国

際ランチョンミーティングの案内は、JSSE レター次号に掲載予定です。

[日 時] 2026年9月12日(土) 12:30~13:45

[参加申込] 年会サイト <https://jsse.jp/jsseam/jsse50> の「国際交流委員会企画」に掲載予定です。

[参加費] 中学生・高校生(引率教員・保護者を含む)は無料

引率教員・保護者が第50回年会の他のプログラムに参加する場合は、年会参加申込(有料)が必要です。年会のすべてのプログラムに参加できます。

第 50 回年会 開催案内（第 4 次）

年会企画委員会・年会実行委員会

1. 年会テーマ：科学教育研究の半世紀とこれから
2. 日程：2026 年 9 月 11 日（金）～13 日（日）（3 日間を予定）
3. 会場：東京大学 駒場Ⅱリサーチキャンパス  
（〒153-8505 東京都目黒区駒場 4-6-1）  
<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/access/>
4. 連絡先：日本科学教育学会第 50 回年会実行委員会  
E-mail：jsse50(atmark)iis.u-tokyo.ac.jp ※(atmark)を@に変換してください。
5. スケジュール概要（予定） ※プログラム編成により変更になる場合があります。  
11 日（金） 午前：研究発表  
午後：研究発表 理事会（改選前） 顧問・理事・支部長・代議員合同会議  
12 日（土） 午前：研究発表 招待講演  
午後：代議員総会・表彰 50 周年記念シンポジウム 懇親会  
13 日（日） 午前：研究発表  
午後：理事会（改選後） 研究発表（申し込み状況により設定）  
\*その他、50 周年記念企画、各委員会による企画、各委員会の会合等があります。

6. タイムテーブル（予定） ※プログラム編成により変更になる場合があります。

タイムテーブル

1日目 9月11日(金)		2日目 9月12日(土)		3日目 9月13日(日)	
8:30		受付 8:30-		受付 8:30-	
9:00		課題研究 9:00-11:00	一般発表 9:00-11:00	インタラクティブ セッション/ 創立50周年記念行 事「小中高生の探究 発表」 9:00-11:00	課題研究 9:00-11:00 一般発表 9:00-11:00
9:30	受付 9:30-				
10:00	課題研究 10:00-12:00 一般発表 10:00-12:00				
10:30					
11:00		休憩			
11:30		招待講演(科学教育研究セミナー)1 11:15-11:45 招待講演(科学教育研究セミナー)2 11:15-12:15		理事会(改選後) 11:15-12:45	
12:00	昼食・各種委員会 12:00~13:00				
12:30		休憩			
13:00	課題研究 13:00-15:00 一般発表 13:00-15:00	昼食・各種委員会 12:30-13:45	国際ランチョン ミーティング 12:30-13:45	創立50周年記念行 事「ラウンドテーブ ル」 13:00-15:00	課題研究 13:00-15:00 一般発表 13:00-15:00
13:30		総会・表彰 13:45-15:15			
14:00					
14:30					
15:00	休憩			休憩	
15:30	理事会(改選前) 15:15-17:15	休憩			課題研究 15:15-17:15 一般発表 15:15-17:15
16:00	若手活性化 委員会企画 チュートリアル 15:15-17:15	創立50周年記念シンポジウム 15:45-18:15			
16:30					
17:00					
17:30	顧問・理事・支部長 代議員合同会議 17:30-19:30			年会実行委員会・ 年会企画委員会合同会議 17:30-18:30	
18:00					
18:30	若手活性化委員会 企画 スタートアップパー ティ 18:00-20:00	移動			
19:00		懇親会(会場:渋谷エクセルホテル東急) 19:00-20:30			
19:30					
20:00					
20:30					

7. 内容：次の内容を予定しています.

(1) 招待講演（科学教育研究セミナー）

招待講演（科学教育研究セミナー） 1

舟橋 友香（奈良教育大学）

題目「馴染みのない研究方法論を学ぶことで生じる科学教育研究者の変容」

招待講演（科学教育研究セミナー） 2

木村 優里（東京科学大学）

題目「進路選択における文系観・理系観の影響と「理系ではないというアイデンティティ」の獲得に関する研究について」

(2) 日本科学教育学会創立 50 周年記念シンポジウム

趣 旨：日本科学教育学会は、これまで半世紀にわたり、科学教育の学術的発展と教育実践の改善に貢献してきました。この 50 年の歩みの中で、科学教育研究は、認知科学、学習科学、社会文化的アプローチ、リテラシー、ジェンダー、インクルーシブ教育、市民性教育、持続可能な開発のための教育 (ESD)、さらには STEM/STEAM など、多様な視点・テーマへとその射程を拡げてきました。また、学問の国際化も進展する中で、科学教育研究においても国際的視野を持ち、多文化的文脈を踏まえた知の創出が不可欠となっています。こうした学術的多様性は、科学教育が、単なる知識伝達にとどまらず、複雑化・多様化する社会において、科学的に思考し、判断し、行動できる市民を育成する営みであることを示しています。

一方で、多様な研究の進展によって、研究の断片化や専門分化の加速を招き、教育実践との接点が見えにくくなるという課題も指摘されています。異なる研究領域がいかんして互いに補完・連携し、共創的な教育実践へと結びつくのか、また、生成 AI の出現・発展など急速な社会変化や地球規模の課題に対し、科学教育研究がいかなる社会的要請に応え、どのような未来を切り拓いていくのか、いま改めて問われています。

本シンポジウムでは、「科学教育研究の多様性と今後の展開」をテーマに掲げ、異なる研究領域の第一線で活躍する研究者やアナリストをお迎えし、それぞれの視座から科学教育研究の現在地と課題、そして未来への展望についてご発表いただきます。登壇者同士の対話に加え、参加者との対話を通して、学会として多様性をどのように受け止め、研究の方向性や共通基盤、さらには次世代の社会や産業の発展を支える科学技術人材をどのように育成するのかを、共に考える場としたいと考えています。

テーマ：科学教育研究の多様性と今後の展望

登壇者：大島まり 氏（東京大学生産技術研究所教授）

(50 音順) 小川義和 氏（立正大学教授，前日本科学教育学会会長）

田熊美保 氏（OECD 教育局シニア政策アナリスト）

榊 太一 氏（同志社大学ハリス理化学研究所）

渡辺 美代子 氏（特定非営利活動法人ウッドデッキ）

隅田学 氏（モデレーター）（日本科学教育学会会長）

(3) 課題研究発表

特定のテーマについて徹底的に議論できる場とします。企画をお持ちの方は応募ください。詳細は「7. 発表申込等について」をご覧ください。

(4) 一般研究発表

一般の口頭発表形式のセッションです。詳細は「7. 発表申込等について」をご覧ください。なお、前回に引き続き、第50回年会においても、希望人数により英語セッションを設定予定です。英語セッションでの発表を希望される場合は「JSSE 年会発表申込 Web サイト」の記載に従って申し込みください。

(5) インタラクティブセッション

対面でのポスター発表もしくは実演紹介の形態で、研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う場です。詳細は「7. 発表申込等について」をご覧ください。

(6) 創立 50 周年記念行事

学会創立 50 周年を記念する行事として「ラウンドテーブル」と「小中高生の探究発表」を開催します。また、国際甲虫委員会が開催する「国際ランチョンミーティング」に中高生の参加も参加できるように企画しております。詳細は次の Web サイトをご確認ください。

<https://jsse.jp/jsseam/jsse50/jsse50th-event>

※「ラウンドテーブル」「小中高生の探究発表」「国際ランチョン・ミーティング」それぞれ申込先、問合せ先が異なりますのでご注意ください。

【ラウンドテーブル】

学会員、教育関係者、一般の方、高校生、中学生が一緒になって、未来の社会をみつめ、科学と教育について議論するラウンドテーブルです。

[テーマ] 多様性と科学と教育（仮）

[日 時] 2026 年 9 月 13 日（日） 13：00～15：00

[対 象] 学会員、教育関係者、一般の方、高校生、中学生

[参加申込締切] 2026 年 8 月 13 日（木）（先着 50 名）

ファシリテーターをしてくれる方も募集しています。申込の際に希望欄を選択してください。中学生・高校生がファシリテーターとして参加することもできます。

【小中高生の探究発表】

小学生・中学生・高校生のみなさんが、日頃の探究の成果を学会で発表する場です。年会のインタラクティブセッション（研究者や大学生・大学院生のポスター発表）と一緒に開催します。学会員のみなさまは、小学生・中学生・高校生の探究発表を聞いて、是非、コメントやアドバイスをお願いします。

[日 時] 2026 年 9 月 13 日（日） 9：00～11：00

[対 象] 小学生、中学生、高校生

[募集件数] 合計 50 件（同一の学校は 5 件程度）

[発表形式] ポスター発表（サイズ A0） ポスターを作成して、発表当日に持参してください。

[発表・参加申込締切] 発表申込：2026 年 6 月 19 日（金）

参加申込：2026 年 8 月 13 日（木）

### 【国際ランチョンミーティング】

年会2日目の9月12日(土)昼食時間に、国際交流委員会が「国際ランチョンミーティング」を開催します。海外からの留学生や訪問者も含め、学会員と一般参加者が、海外の学会での発表経験や国際的な科学教育研究について語り合う機会です。第50回年会では中学生・高校生の参加も可能です。国際ランチョンミーティングの案内は、JSSE レター次号に掲載予定です。

[日 時] 2026年9月12日(土) 12:30~13:45

[参加申込] 年会サイト <https://jsse.jp/jsseam/jsse50> の「国際交流委員会企画」に掲載予定です。

## 8. 発表申込等について

- ・発表申し込みの際には、「参加受付番号」の入力が必要になります。参加申し込み(年会 Web サイトの参加・発表申込用リンク参照)を先に済ませた後、メールで通知いたします「参加受付番号」を確認して、発表申し込みを行ってください。
- ・2026年10月以降に年会論文集の原稿を J-STAGE に掲載します。
- ・原稿提出締め切り期日を厳守してください。原稿提出締め切り期日後は、年会論文集や J-STAGE への掲載も含めて、学会側の瑕疵を除き、修正や差し替えができませんことをご了承ください。

### (1) 課題研究発表の申込・原稿提出

特定のテーマについて徹底的に議論できる場とします。企画をお持ちの方は応募ください。

#### <スケジュール(予定)>

- ・企画応募開始：2026年4月28日(火)【オーガナイザー → 年会企画委員会】
- ・企画応募締切：2026年5月15日(金)【オーガナイザー → 年会企画委員会】
- ・受理審議：2026年5月18日(月)~5月22日(金)【年会企画委員会】
- ・審議結果報告：2026年5月25日(月)【年会企画委員会 → オーガナイザー】
- ・原稿提出期間：2026年5月27日(水)~6月19日(金)【オーガナイザー → アップロード】

**※6月19日(金)は、登壇者がオーガナイザーに原稿を提出する期限ではありません。この日は、年会企画委員会への提出期限であり、「JSSE 年会申込 Web サイト」から原稿をアップロードしてください。**提出方法については、従前どおり、オーガナイザーが登壇者全員分をとりまとめてアップロードする方法、または登壇者自身が各自でアップロードする方法のいずれかによりご提出ください。

#### <企画応募方法>

- ・年会Webサイト掲載の方法で、申し込んでください。

#### <原稿提出方法>

・年会Webサイト掲載の方法で、「JSSE年会申込Webサイト」から必要事項を記入の上、完成原稿(発表1件あたり4ページまたは2ページ)のPDFファイル(1ファイル約1MB未満、セキュリティなし)を提出(アップロード)してください。

#### <応募に当たっての留意事項>

- ・オーガナイザー資格：会員でなければなりません。
- ・登壇者：登壇者を企画応募締切までに確定してください。課題研究発表での登壇は1回とし、登壇者の重複はできません。登壇を依頼される場合には、当該登壇者が他の課題研究発表と重複ができない点を周知・確認した上で確定するようにしてください。なお、登壇者とは別に指定討論者を立てる場合には、申請用紙に記入してください。指定討論者については、重複を認めず。

- ・登壇者資格：登壇者は会員，非会員を問いません。ただし，非会員による発表件数は，原則として当該課題研究における全発表件数の半数を超えないものとします。やむを得ずに半数を超える場合は，企画応募締切までにその理由を申請用紙に添えて申し込んでください。非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えた場合で理由書の添付されていない企画は受理されません。非会員の発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えている企画について受理するかどうかは，年会企画委員会で審議します。なお，受理された企画であっても，受理後に登壇者の変更がなされ，非会員による発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えた場合，受理が取り消される場合もありますので，ご留意願います。

## (2) 一般研究発表・インタラクティブセッションの申込・原稿提出

### <スケジュール（予定）>

- ・申込及び原稿提出期間：2026年5月27日（水）～6月19日（金）

※申込と原稿提出を同時に行ってください。

※期日等に変更が生じた場合は，学会Webや科学教育研究レターなどで通知します。

### <申込及び原稿提出方法>

- ・年会Webサイト掲載の方法で，「JSSE年会申込Webサイト」から必要事項を記入の上，完成原稿のPDFファイル（1ファイル約1MB未満，セキュリティなし）を提出（アップロード）してください。
- ・書式や留意事項等の詳細は，「日本科学教育学会 年会論文集 執筆要項」をご覧ください。

### <資格・登壇可能件数>

- ・登壇者資格：会員でなければなりません。

※本欄における「会員」とは，学会事務局が入会申込書の受付を済ませていることを意味します。ただし，発表申込及び原稿提出期間と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐため，入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については，発表申込及び原稿提出期間の年度ではなく，年会が開催される新年度からの入会でも可とします。

- ・登壇者として申込可能な一般研究発表・インタラクティブセッションの件数は，各1件です。なお，一般研究発表・インタラクティブセッションの登壇者は，課題研究，その他の企画にも登壇することができます。

### <発表時間>

- ・一般研究発表の持ち時間は20分程度（発表15分，質疑・討論5分）を予定しています。
- ・インタラクティブセッションは 2 時間の発表時間を設定する予定です。

## (3) 年会論文集原稿の執筆内容に関する留意事項

原稿執筆にあたっては，次の要件を満たすように心がけてください。

### ◆研究領域

日本科学教育学会の会員が関心を持つ研究領域の研究である。

### ◆主題または問題の所在

問題の所在が明快である。

### ◆研究の背景

関連研究，依拠する理論，関連する実践等によって，研究の背景が明示されている。

### ◆研究の方法

研究の方法論，手順，計画などが適切で，それらが明示されている。

◆結果と知見

得られた結果，知見，アイデア等が明示されている。

◆結論

問題の所在に即した結論や課題が明示されている。

9. 各委員会等による企画

(1) 若手活性化委員会

- ・11日（金）の午後にかけて，ワークショップを計画中です。

(2) 国際交流委員会

- ・12日（土）の昼食時に国際ランチョンミーティングを計画中です。

10. 年会の開催形態等について

- ・第50回年会は，現地での対面開催を基本とします。ただし，課題研究発表は対面とオンラインを組み合わせたハイフレックス開催も可としますが，その準備や運営については登壇者にさせていただきます。
- ・一般研究発表は対面での発表部屋とは別に，オンライン専用の発表部屋を設定する予定です（オンラインでの参加者は，対面での発表部屋には参加できないなどの制限があります）。インタラクティブセッションは，対面のみで実施します。
- ・オンラインでの参加・発表については，各自でオンライン会議システムZoom等のミーティングID，及び利用できる機器（パソコン・タブレット，イヤホン，マイク，モバイルWi-Fiルータ等）の準備をお願いします。
- ・論文集は，電子的方法にて配布いたします。
- ・会期中に台風・地震の災害が起こった際など，中止や開催方法の変更等の対応につきましては，開催校である東京大学の規定等を準用して判断し，年会Webサイト等を通じてご案内します。

11. 参加費・懇親会費

- ・参加費，懇親会費については会員種別・支払日に応じて，表1，表2の通りです。
- ・申込先：年会 Web サイトの参加申込用リンクからお申し込みください。

表1. 参加費一覧表

会員種別	参加費（事前）	参加費（通常）
正会員・シニア会員	7,000 円	9,000 円
学生会員	4,000 円	5,000 円
非会員（学生以外）	9,000 円	11,000 円
非会員（学生）	6,000 円	7,000 円
支払期限	7月31日（金）	8月31日（月）
支払方法	クレジットカード払い 銀行振込	クレジットカード払い 銀行振込

表2. 懇親会費一覧表

会員種別	参加費（事前）	参加費（通常）
正会員・シニア会員	6,500 円	8,500 円
学生会員	4,500 円	5,500 円
非会員（学生以外）	7,500 円	9,500 円

非会員（学生）	5,500 円	6,500 円
支払期限	7 月 31 日（金）	8 月 31 日（月）
支払方法	クレジットカード払い 銀行振込	クレジットカード払い 銀行振込

※参加費には、年会論文集ダウンロード案内が含まれています。

※支払方法：年会 Web サイトに掲載の方法で送金してください。手数料はご負担ください。

※参加費、懇親会費の支払いは、8 月 31 日（月）までの申込の場合はクレジットカード払いと銀行振込が利用できます。振込先口座番号は、申し込み画面にて確認できます。

※9 月 1 日（火）以降も申込が可能です。但し、9 月 1 日（火）以降は、クレジットカード支払いのみ受け付けます（現金・振込でのお支払いは不可）。また、懇親会の当日の申込可否は受付にて判断します。なお、当日申込可能な場合も、支払いはクレジットカードのみとなります。

※申込後のキャンセルの場合、理由の如何を問わず、返金はできかねますので予め承知願います。

## 12. 宿泊の斡旋

- ・斡旋の予定はありません。各自で手配いただきますようお願いいたします。

## 13. 託児サービス

- ・会期中の託児サービスの実施を予定しております。詳細については、web サイトにてご案内いたします。

## 14. 第 50 回年会実行委員会

委員長 大島 まり（東京大学）

委員 川越 至桜（東京大学）・上田 史恵（東京大学）・樗木 悠亮（東京大学）

玉澤 春史（京都大学/東京大学）・沼田 宗純（東京大学）・森 晶子（東京大学）

## 15. 年会企画委員会

委員長 服部裕一郎（岡山大学）

副委員長 福田博人（岡山理科大学）、畠山 久（東京科学大学）

幹事 石橋一昂（岡山大学）

担当理事 大谷 忠（東京学芸大学）、山本智一（兵庫教育大学）

委員 安部洋一郎（兵庫大学）、新井しのぶ（中村学園大学）、岡部 舞（大阪教育大学）、小野寺かれん（岡山大学）、川越至桜（東京大学）、川崎弘作（岡山大学）、木村優里（東京科学大学）、小泉健輔（横浜国立大学）、平林真伊（山形大学）、増田有紀（埼玉大学）、谷田親彦（広島大学）、山中真悟（福山市立大学）、山本輝太郎（金沢星稜大学）

2025 年度研究会開催のお知らせ

今後の開催計画

開催支部/委員会	開催日	発表申し込み締切日	会場
国際交流委員会	終了しました	終了しました	オンライン
若手活性化委員会	終了しました	終了しました	大阪教育大学 天王寺キャンパス (一部オンライン)
東北支部	終了しました	終了しました	秋田大学 手形キャンパス
北陸甲信越支部	2 終了しました	終了しました	富山大学
北関東支部	終了しました	終了しました	埼玉大学
四国支部	2026 年 5 月 30 日(土)	2026 年 4 月 30 日(木)	鳴門教育大学
中国支部	2026 年 6 月 14 日(日)	2026 年 5 月 15 日(金)	岡山大学

研究会に関する最新情報は学会 Web ページに掲載しますので、ご確認ください。

※右の QR コードより、学会 Web ページ（研究会案内）にアクセスできます。

<https://jsse.jp/1-3>



2025 年度第 6 回日本科学教育学会研究会（四国支部開催）

[テーマ] 次世代を見据えた教育環境と科学教育

[主 催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日 時] 2026 年 5 月 30 日（土） 10：00～17：00

[会 場] 鳴門教育大学 地域共創棟 多目的教室 ※対面開催

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748

[対 象] 会員、教員、学生、社会人

[参加申込・締切]

発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。

参加費は無料です。

参加のみの場合、申込締切は当日までとなります。

発表参加の場合、[発表申込・論文提出締切]をご確認ください。

[参加申込先]

2025 年度第 6 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：早藤 幸隆（鳴門教育大学）

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748 鳴門教育大学 理科教育コース

Tel/Fax (088-687-6409)

E-mail : hayafuji(atmark)naruto-u.ac.jp（早藤 幸隆） ※アドレスの(atmark)の部分は@です。

※参加のみの場合、当日参加可能

[発表申込・論文提出締切]

発表は、単名または連名発表者に1名以上の会員を含むことが条件となります。発表申込の際に「入会申込」が完了していれば、会員として扱うこととします。

発表を希望される方は、メールの件名を「発表申込 2025 年度第 6 回日本科学教育学会研究会（四国支部開催）」として、第一著者氏名・第一著者ふりがな・所属、すべての連名発表者氏名・所属、タイトル（サブタイトルがあればサブタイトルも）、E-mail アドレス、電話番号、連絡先を明記した E-mail を企画編集委員：早藤 幸隆（鳴門教育大学）迄お送りください。

※連名発表者の氏名と所属は可能な限り原稿掲載順にご記入ください。

※タイトルは可能な限り申込時と同様のものを原稿に記載してください。

※プログラムは申込時の情報を元に作成されます。連名発表者やタイトルを変更されますとプログラムに反映されないことがあります。その際には、ご了承ください。

※J-STAGE に公開する『科学教育研究報告』の目次は、投稿時の原稿に示された著者とタイトルを元に作成されます。

発表申込締切および原稿投稿料の支払いと原稿の提出締切は、2026 年 4 月 30 日（木）です。

**【重要事項】**原稿の提出と入金両方が確認されない場合には、自動的に発表は取り消しとなりますので、くれぐれもご注意ください。また、入金された投稿料はいかなる理由があっても返金されません。他の研究会への振替もできません。返金等に関する問合せにも一切対応いたしませんので、予めご了承ください。発表申込みの準備は計画的に行っていただきますようお願い申し上げます。

連名発表者の研究会への参加申込は各自個別に行ってください。発表申込をした第一著者は、参加申込の必要はありません。

研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください。

〈URL : <https://jsse.jp/1-3/115-2>〉

研究会研究報告のテンプレートは学会ホームページをご参照ください。

〈URL : <https://jsse.jp/1-3/125-2>〉

原稿は次のウェブサイトから投稿してください。

〈URL : <https://jsse-kenkyukai-form.jp/>〉

研究会情報のプルダウンメニューで「**四国支部**」を選んでください。

投稿完了メールは<info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp>より自動送信されます。このアドレスからのメールを受信できるように、あらかじめフィルタ設定等をご確認ください。

アドレスの(atmark)の部分は@です。

多数の方々のお申込みをお待ちしております。

日本科学教育学会 四国支部長 林 敏浩(香川大学)

## 2025 年度第 7 回日本科学教育学会研究会（中国支部開催）

[テーマ] 学びの多様性を支える科学教育

[主催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日時] 2025 年 6 月 14 日（日） 10：00～16：30（終了時刻は予定）

[会場] 岡山大学教育学部 講義棟

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中 3-1-1

[対象] 会員，教員，学生，社会人

[参加申込・締切]

発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。

参加費は無料です。

参加を希望される方は、以下の URL より必要情報をご記入の上、送信してください。

参加申込: 〈URL : <https://forms.gle/av4RS1caxoRkiWAB7>〉

発表を伴わない場合、当日の参加も可能ですが、できるだけ事前の申し込みをお願いします。

[発表申込・論文提出締切]

発表は、単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含むことが条件となります。発表申込の際に「入会申込」が完了していれば、会員として扱うこととします。

発表を希望される方は、以下の URL より必要情報をご記入ください。

発表申込: 〈URL : <https://forms.gle/av4RS1caxoRkiWAB7>〉

※連名発表者の氏名と所属は可能な限り原稿掲載順にご記入ください。

※タイトルは可能な限り申込時と同様のものを原稿に記載してください。

※プログラムは申込時の情報を元に作成されます。連名発表者やタイトルを変更されますとプログラムに反映されないことがあります。その際には、ご了承ください。

※J-STAGE に公開する『科学教育研究報告』の目次は、投稿時の原稿に示された著者とタイトルを元に作成されます。

発表申込締切および原稿投稿料の支払いと原稿の提出締切は、2026 年 5 月 14 日（木）です。

**【重要事項】**原稿の提出と入金両方が確認されない場合には、自動的に発表は取り消しとなりますので、くれぐれもご注意ください。また、入金された投稿料はいかなる理由があっても返金されません。他の研究会への振替もできません。返金等に関する問合せにも一切対応いたしませんので、予めご了承ください。発表申込みの準備は計画的に行っていただきますようお願い申し上げます。

連名発表者の研究会への参加申込は各自個別に行ってください。発表申込をした第一著者は、参加申込の必要はありません。

研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください。

〈URL : <https://jsse.jp/1-3/115-2>〉

研究会研究報告のテンプレートは学会ホームページをご参照ください。

〈URL : <https://jsse.jp/1-3/125-2>〉

原稿は次のウェブサイトから投稿してください。

〈URL : <https://jsse-kenkyukai-form.jp/>〉

研究会情報のプルダウンメニューで「中国支部」を選んでください。

投稿完了メールは<info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp>より自動送信されます。このアドレスからのメールを受信できるように、あらかじめフィルタ設定等をご確認ください。

アドレスの(atmark)の部分は@です。

多数の方々の申込みをお待ちしております。

日本科学教育学会 中国支部長 佐々木 弘記 (徳島文理大学)

## 2026年 教科「理科」関連学会協議会（CSERS）シンポジウムのご案内

### 1 テーマ

これからの時代に求められる『実力ある理科教員』とは  
一資質向上のために学会は何ができるかー

### 2 目的

科学技術立国としての基盤を支える理科教育の充実は、我が国の喫緊の課題です。しかし現在、教員のなり手不足と採用倍率の低下は深刻化しており、教員確保を優先するあまり養成・採用のハードルが下がり、十分な実力を有しないまま教壇に立ってしまう現状が指摘されています。その一方で、教育現場では「観察・実験指導の自信不足」「探究学習への対応」「ICT活用」など、理科教員に求められる資質能力は高度化・複雑化しています。本シンポジウムでは、教科「理科」関連学会協議会（CSERS）6学会がそれぞれの立場から教員の資質向上のために学会は何ができるかを提起します。「量」の確保と「質」の維持という難題に向き合いながら、「実力ある理科教員」とは具体的にどのような能力を持つ者か、そしてその育成のために各機関がいかに連携（協働）すべきかについて議論を深め、実効性のある育成モデルを模索します。

### 3 主催

教科「理科」関連学会協議会（CSERS）：

初等・中等教育における教科「理科」の内容の検討にあたり、その構成、目標、内容および内容の取り扱いに関して、関連学会間の意見交換、及び調整をはかり、学校教育のよりよい発展を目指すことを目的とした教科「理科」教育関連学会6学会で（日本物理教育学会、日本化学会/教育・普及部門、日本生物教育学会、日本地学教育学会、日本科学教育学会、日本理科教育学会）構成されている。

### 4 対象

小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の教職員及び管理職、  
教育委員会の指導主事等、関係職員、大学等の研究者、教職課程の学生、  
その他、本フォーラムの趣旨に関心のある方

### 5 日程

2026年6月28日（日）13:00～16:30

## 6 会場

対面（東京大学 生産技術研究所：駒場Ⅱキャンパス）及びオンラインによるハイブリッド形式

## 7 プログラム(予定)

13:00～13:15	開会挨拶 片山 豪（CSERS 議長/日本生物教育学会）
13:20～13:35	「日本地学教育学会の取り組みについて」 川村教一（日本地学教育学会/兵庫県立大学）
13:35～13:50	「理科の学習指導の実力を高めるために」 藤井浩樹（日本理科教育学会/岡山大学）
13:50～14:05	「物理教育レクチャーシリーズの発信から出版へ」 今井章人（日本物理教育学会/早稲田中学・高等学校）
14:15～14:30	「理科教師の pedagogical content knowledge とは何で、どのように育成するか」 越智拓也（日本科学教育学会/成蹊大学）
14:30～14:45	「生物教育研究のコミュニティとしての学会が理科教員の資質能力の向上に果たす役割」 渡邊重義（日本生物教育学会/熊本大学）
14:45～15:00	「資質向上のために学会は何ができるか⑥」 （日本化学会/.....）
15:10～16:25	パネルディスカッション
16:25～16:30	閉会挨拶 高橋 修（CSERS 委員/日本地学教育学会）

## 8 参加申し込み

Peatix URL：現在準備中

申込締切：2026年6月19日（金）※定員（対面100名，オンライン250名）に達し次第，締切となります。

## 9 その他

アーカイブ配信は行いません。

## 国際ランチョンミーティングのお知らせ

年会2日目の9月12日（土）昼食時に、国際交流委員会が「国際ランチョンミーティング」を開催します。海外からの留学生や訪問者も含め、学会員と一般参加者が、海外の学会での発表や国際的な科学教育研究について語り合う機会です。第50回年会では中学生・高校生の参加も可能です。

今年は「国際共同研究」をテーマとして、そのご経験が豊かな2名の先生から話題提供をしていただきます。その後、グループトークを含め、参加者の皆様の交流を予定しております。11月ごろに予定している英語による研究会等のご案内も行います。ぜひご参加ください。

○日時：9月12日（土）12:30-13:45（予定）

○プログラム：

ICASE参加報告

ゲストトーク：国際共同研究について

熊野善介先生（宮城教育大学・静岡大学）、真野祐輔先生（広島大学）

参加者交流セッション

○参加資格：

第50回年会参加者はどなたもご参加いただけます。オンライン配信はありません。中学生・高校生（引率教員・保護者を含む）も参加可能です。

引率教員・保護者が第50回年会の他のプログラムに参加する場合は、年会参加申込（有料）が必要です。年会のすべてのプログラムに参加できます。

○参加方法：今後のレターおよび年会サイトの「国際交流委員会企画」に後日ご案内予定です。

<https://jsse.jp/jsseam/jsse50>

○事前登録をいただいた方には、軽食（昼食）を国際交流委員会にてご用意いたします。事前登録は昼食数の関係で40名までとさせていただきます。当日参加も可能です（当日参加の場合は昼食の提供はございません）。

## 国際学会参加報告(78)

### The 48th Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education

2025年7月28日～8月2日に開催されたPME48 (the 48th Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education)では、従来から重視されてきた概念理解や問題解決過程に加えて、beliefやidentity,engagementといった情意面にも関心が広がり、子どもの認知と情意の両面から数学学習を捉える研究が多くみられました。また、学びを個人の活動としてだけでなく、教室内での対話や協働、さらには文化的・社会的背景の中で捉える研究もありました。特に、教室での共同的な問題解決の過程に着目し、学びがどのように形成されていくのかを分析する研究は、現在の主な視点の一つとなってきました。

研究方法の面でも広がりが見られ、質的研究やデザイン研究に加えて、大規模データの分析もみられるなど、学びを多面的に理解する試みが進んでいます。さらに、学習機会の格差や多様な背景をもつ学習者への支援といったequityやinclusionに関するテーマも取り上げられていました。

研究発表だけでなく、参加者同士の交流に重きがある点もPMEの魅力的の一つです。例えば、懇親会では、開催地の文化や雰囲気を感じることができる催しがあり、各国の研究者がリラックスした雰囲気で見聞交換できる貴重な機会となっています。今回の大会においても、チリの民族衣装を身にまとった伝統ダンスが披露され、参加者も一緒にダンスを楽しんでいました。

PMEは毎年開催されており、PME49は2026年には7月27日～8月1日にフィンランド・ヘルシンキで開催されます。さらに、2027年の第50回大会PME50は東京で開催されます。日本の数学教育研究を国際的に発信するとともに、海外の研究者との交流をさらに深める重要な機会となるはずですが、日本科学教育学会の会員の皆様からも多くの参加があり、数学教育研究の発展とさらなる国際交流の深化を期待しております。



(渡邊耕二・宮崎国際大学)

## 国際学会開催情報

### **8th ICASE 2026 World Science and Technology Education Conference**

開催地：Coke, Ireland

期間：2026年6月22-25日

発表エントリー締切：2026年3月1日

<https://icaseonline.net/icase2026/>

※詳細は後述

### **EASE (East-asian Association for Science Education)**

開催地：Hong Kong, Hong Kong

期間：2026年5月28-30日

<https://ease2026.eduhk.hk>

### **ASERA 57 2026 Conference (Australian Science Education Research Association)**

開催地：Brisbane, Australia

期間：2026年6月30-7月3日

発表エントリー締切：2026年2月末

<https://www.asera.org.au/2026-conference/>

### **PME49 (The 49th Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education)**

開催地：Helsinki, Finland

期間：2026年7月27日-8月1日

<https://www.helsinki.fi/en/conferences/pme49>

### **ICOTS12 (The 12th International Conference on Teaching Statistics)**

開催地：Brisbane, Australia

期間：2026年7月12-17日

<https://communities.isi-web.org/event-icots12>

### **CERME15 (The 15th Congress of the European Society for Research in Mathematics Education)**

開催地：Bratislava, Slovakia

期間：2027年2月8-12日

<https://www.cerme15.org>

**ICTMA-23 (The 23rd International Conference on the Teaching of Mathematical Modelling and Applications)**

開催地：Skukuza, South Africa

期間：2027年8月22-27日

**ESERA (European Science Education Research Association) Conference 2027**

開催地：Málaga, Spain

期間：2027年8月27日-9月3日

**ICME-16 (The 16th International Congress on Mathematical Education)**

開催地：Prague, Czech Republic

期間：2028年7月9-16日

<https://www.icme16.org/>

### 若手活性化委員会の次期体制に関するお知らせ

このたび、委員会の次期体制（委員・アソシエイト委員）の検討にあたり、委員会活動にご関心をお持ちの方へ向けて、オンデマンド説明会動画を作成しました。若手活性化委員会の目的や活動内容、体制等について簡単に紹介しています。

「少し気になる」「どのような活動をしているのか知りたい」といった方も、ぜひお気軽にご視聴ください。

若手活性化委員会の委員・アソシエイト委員にご関心をお持ちいただけましたら、応募フォームへのご記入をご検討いただけますと幸いです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

動画 URL : <https://www.youtube.com/watch?v=d8gjzdvAMY4>

応募フォーム URL : <https://forms.gle/2UL4DTSwfWGKBV668>

※ 応募締切 2026 年 5 月 11 日

#### <その他>

若手活性化委員会では、論文執筆に関して気軽にノウハウを学ぶことができるオンデマンド動画「Tips 動画」を YouTube 上で公開しています。「文章の書き方」「先行研究の調べ方」「本の読み方」「イントロの書き方」「考察の執筆で大切にしたいこと」等など、役立つ Tips を動画で学ぶことができます。ぜひご視聴ください。

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLIXmLhKl7Y2tumBx1LX\\_GCPbCghsc3LeS](https://www.youtube.com/playlist?list=PLIXmLhKl7Y2tumBx1LX_GCPbCghsc3LeS)

上のリンクは一般公開シリーズです。会員限定公開シリーズについては、メール等でリンクをお知らせいたします。

また、研究会に関わる情報は学会 HP のほか、若手活性化委員会 Facebook ページやメーリングリストで随時公開していきます。どうぞご期待ください。

Facebook ページやメーリングリストの登録は、随時、受け付けています。ぜひご登録ください。

○若手活性化委員会 Facebook

<https://www.facebook.com/jssewakate/>

○JSSE 若手研究者メーリングリスト登録 URL

<https://goo.gl/tClQb4>

(高知大学：袴田綾斗)

## 若手研究者、「初心」を語る

誰もが何らかのかたちでその「初心」を思い出し、その感触を手になたな一歩を踏み出す季節です。今回は、若手活性化委員会の5名の方々からそれぞれの経験や思いについて寄稿いただきました。

### 初めてのカンボジア訪問記：「一緒にやりましょう」は国境を越える…！

岡山大学学術研究院教育学域 小野寺かれん

2026年3月、とあるプロジェクトの始動に向けて、初めてカンボジアを訪れた。——と書くと壮大に聞こえるが、残念ながらこのプロジェクトはまだ極秘である。内容を書いてしまうと、次に現地へ行ったときに「聞いてないよ」と言われかねないので、ここでは「とあるプロジェクト」とだけ書いておきたい。(ちなみに私はプロジェクトメンバーの一人である。尊敬する先生方・専門家の皆様とともに取り組めることを光栄に感じている。)

6日間で訪れたのは、プノンペン(首都)、プレイベン州、タケオ州。大学や高校、施設を回り、教員や学生のみなさんと話をする、刺激的で充実した日々だった。はじめは少し緊張していたが、話題は自然と「自分たちの地域をどうよくしていくか」、そして「教育を通して何ができるか」という話になった。プロジェクトや岡山大学のことを紹介すると、「考えを共有したい」「一緒にやりましょう」と、思った以上に前のめりな反応が返ってくる。地域も国も違うのに、「自分たちの地域をよりよくしたい」という気持ちは驚くほど似ている。その共通点に気づいた瞬間、ぐっと距離が縮まる。違う考えが出てくるたびに、「なるほど、その視点はなかった」と会話が弾む。離れた場所同士でも、一緒に何かができるかもしれない。いや、一緒にやりたい。そんなわくわく感が、日を追うごとに強くなっていった。

その「距離が縮まる感覚」は、プロジェクトの話だけでなく、滞在中の何気ない時間の中にもあった。プノンペンの大学では、学生から日本についての質問攻めにあった。「岡山には何があるの?」「朝食は何を食べるの?」「金閣寺って本当に金でできているの?」。想定外の質問に驚きながらも答えつつ、こちらも大学生活や地域のことを聞き返す。互いに関心を持って質問を重ねるうちに、最初の緊張はすっかりなくなっていた。

プレイベン州の大学では、農学部の学生が広い畑を案内してくれた。「これ、食べてみて」と手渡されたのは、粒が少し赤みがかかったトウモロコシ。かじると、ねっとりとした初めての食感で、思わず「おいしい」と声が出た。同じものを食べて笑い合うだけで、一緒に何かしたいという思いが強くなる。地域のことを一緒に考える関係は、こうした時間の中でも育っていくのだと感じた。

タケオ州の高校では、授業の様子も見学させていただいた。フランス語の授業で、高校生たちが会話に挑戦する。フランス語に疎いため何を話しているかは正確にはわからなかったが、その一生懸命な姿を見ていると、自然とこちらも笑顔になる。言葉や国は違っても、学ぼうと努力する姿は同じだと実感した瞬間だった。

国を越えて出会い、互いの地域のことを語り合い、「一緒にやりましょう」と言い合える。そんな時間が過ごせたことが何よりありがたかった。まだ極秘のプロジェクトではあるが、このつながりがこれからどんな形になるのか、今から楽しみでならない。

ខ្ញុំនឹងទៅកម្ពុជាឆាប់ៗនេះ! (近いうちにカンボジアに行きます!)



※滞在中は食べてばかりいたわけではありません。ほかにも写真は撮影していますが、プライバシーへの配慮から、今回は食べ物の写真（左：農学部でいただいたトウモロコシ，右：ココナッツ）のみ掲載しています。

---

### 研究テーマはどのようにして決められるのだろうか

静岡大学 新鶴田道也

私はこれまで、物理教材を中心に研究してきた。博士論文は中学校教師をしながら書いた。学校では日々理科教育が行われており、いくつもの研究テーマ（の種）が思い浮かぶ。しかし、ほとんどのテーマは研究されることなく消えていく。

大学へ転職し、研究職（この表現が妥当かどうかは分からないが）となった。とはいえ、研究よりも教育に費やす時間の方が多かった。理科教育のみならず、生活科教育や幼児教育まで手を伸ばした（伸ばさないという選択肢はなかった）。研究業績も求められた。私が業績を作れなければ、学生は資格を取得することができない。決められた分野の中から自分にできそうな研究テーマを探ることになった。

博士論文を書き上げてから研究の方向性を見失った。研究が終わったのではない。一つの節目を迎えて岐路に立ち、どの方向へ進めばよいのか分からなくなった。そのうちに別の道も並行して歩まなければならなくなる。さらに方向感覚がなくなる。

「やりたいことは何だ。」やりたいことはたくさんある。ただし科研費が採択されるとは限らない。「やりたいこと」とは別に、依頼されることもある。きっかけは依頼でも、やっていくうちに「やりたいこと」になることもある。

私に対する依頼として最も多いものは「小学校プログラミング教育」である。研究室の学生もこれをテーマとしている。これは文部科学省が決めた研究テーマになるのだろうか。もちろん、諸外国の動向もあるし、教材や指導法も多く提案されている。

石巻専修大学で勤務した経験から防災教育に関わるようになった。東海大学海洋学部に勤務して海洋教育に触れるようになった。二つが合わさり、今では海洋防災教育に関心をもつようになった（まだ研究しているとは言えないが）。科学教育研究において海洋防災教育は重要だ。モチベーションはある。

10年後の自分の研究テーマはどうなっているのだろうか。今取り組んでいるいくつかの中から絞って成果を出せているのだろうか。もしかすると、全く異なるテーマについて研究しているかもしれない。

## 教員養成を問い直す1年

東京理科大学 中村謙斗

2025年2月、27年間過ごした東京圏を離れ、島根大学の特任助教として松江での生活が始まった。研究者としてのキャリアが始まり、教育学部に所属して教員志望の学生と直接関わる日々が始まった。教員養成に関わりたいという思いから研究者の道を選んだ自分にとって、その環境に身を置けたことは、大きな意味を持っている。

しかし、実際に働き始めてまず直面したのは、「研究する時間がない」という現実だった。朝はメール対応から始まり、授業やゼミに参加し、その後は学内業務や学会、NPOの仕事に追われる。気づけば夕方になり、研究に手をつけられないまま1日が終わることも少なくなかった。大学院生の頃には当たり前のように確保できていた研究時間は、意識的に確保しなければ生まれないものに変わっていた。

この経験から強く感じたのは、「研究時間は余った時間ではなく、先に確保するものだ」ということである。時間ができたら研究しようと考えていると、その時間はほとんど訪れない。むしろ、あらかじめスケジュールとして確保しなければ、研究は進まない。自分の研究時間をどのように設計するかを意識しておくことは、想像以上に重要だと感じている。

また、環境の変化によって、研究の進め方も変わる。大学院生の頃は、近くに同じ分野の仲間がいて、気軽に議論することができた。何気ない会話の中で、自分の考えが整理され、新しい視点をすることも多かった。しかし、そのような環境は必ずしも続くわけではない。同センター在籍の先生方も多忙であり、なかなかお互いに時間を確保することが難しい。現在は、意識的にオンラインでの研究相談の機会をつくり、「誰とどのように議論するか」を自分で設計する必要があると感じている。

一方、大学に所属したことで見えてきたこともある。自分は教員養成に関わりたいという思いから研究者の道を選んだが、実際に教育学部に所属し、教員志望の学生と直接関わることで、研究の意味がより具体的なものとして立ち上がってきた。目の前の学生や、附属学校での授業、教育学部の先生方による実習指導の実態に触れる中で、自分の研究テーマとのつながりを実感する場面が増えている。

特に、自分が経験してきた理学部における開放制の教員養成と、教育学部における教員養成とでは、学生が経験する内容や環境が異なることにも気づかされた。そうした違いに向き合う中で、「よりよい教員養成とは何か」という問いは、これまで以上に具体的で切実なものになっている。

研究者としての出発点にあった思いは、忙しさの中で見えにくくなることもある。それでも、自分が何のためにこの道を選んだのかを、ときどき立ち止まって確かめたい。教員養成に関わりたいという初心に立ち返りながら、研究のための時間を確保し、今後もその問いに向き合い続けていきたい。

---

## 育児休業を終えて思うこと

愛知教育大学 袴田 綾斗

私は中学生のときから「将来子どもが生まれたら育児休業を取りたい」と思っていました。これは当時の担任のN先生の影響です。N先生は私の恩師のひとりで、その自治体で男性教諭として育児休暇を取得した第一号でした（そう記憶していますがやや曖昧です…）。そんな先生への憧れから、私も父親になったときには育休なるものをもってみようと考えていました。もちろん、このときには父親になるこ

とがどういうことなのかをまったく理解していなかったわけですが、

周囲の方々の温かい支援のもと、第一子・第二子いずれのときにも、半年間の育児休業を取得することができました。現在その期間を終え、復職してから1年が経ちました。今回は、この機会を借りて育児休業と研究の関わりについて、『育休中は働いてはいけない』が逆に足かせになることもあるのでは？』ということを書いてみたいと思います。

育児休業中は業務にあたることはできません。したがって研究費による支払いも原則としてできません。しかし、研究が長期にわたって継続するものであることを踏まえると、ちょっと難しい問題が生じることがあります。例えば、「12月のオンラインでの国際会議での発表に5月に申し込んでいたが、8月から半年間の育休を取るようになった」としましょう。このとき、研究自体はすでに報告できるレベルまで進んでいるにもかかわらず、国際会議が育休中に開催されるため、発表するのであればその参加費は私費で支払わなければなりません。もしかしたら、機関によっては研究費での支払いを可とするところもあるかもしれませんが、ほとんどの大学では認められていないのが現状だと思われます。

もちろん「育休期間なんだから例えオンラインであっても学会発表なんかするもんじゃない」というお考えもあるでしょう。しかし、一方でそれは「育児中はプライベートな空間に活動を限定すべき」ということも含意します。そして、個人的な経験からすれば、それは精神衛生上よくありません。特に、研究という活動には仕事とプライベートの境界があいまいだという特徴があります。これは特定の職種に限らないかもしれませんが、とりわけ研究者にとっては「育児休業期間中は一切の業務遂行を原則禁止とする」という縛りが、むしろ育休取得の足かせになっているのではないかと思います。

…なんだかすごくまじめな意見文を書いてしまいましたが、このような意見をもつことができたのも、周囲の方々の温かい支援のもとで育休を取得できたからです。高知大学の関係各位には心からお礼申し上げます。この4月から新たな地で勤めることとなりますが、高知での8年間で得た学びを生かして、頑張っていく所存です。

---

亀でも歩けば進むけど…

埼玉学園大学 森田 大輔

私事で恐縮だが、ちょうど1年前に大学教員として初めての異動を経験した。前任校は理系の大学ということもあり、教職員や学生からは「数学も（ちょっとは）できる教職課程の先生」と見られていたようである。だが、現任校では教育・保育系の学科に所属しており、そのせいか理数系の科目を担当している教員が相対的に少なく、周りからはどうも「ザ・理系の先生」と思われているようである。「所変われば品変わる」とはよく言ったものであるが、数学教師のアイデンティティに関心を持っている私にとって、周りに影響されながら自身のアイデンティティが変容する様を実感できたのは貴重な機会となった。

さて、これは前任校で大学教員としてスタートを切った時にも感じたことだが、新しい環境に身を置くことは、初心を振り返るいい機会である。授業準備や学内業務などに忙殺されることはあれど、新鮮な気持ちで物事に取り組めるからである。とはいえ、気づいたら夜になっており研究時間が全く捻出できなかつたという日も多々あり、ジレンマを感じることも多かつた。そんな中、本コーナーへの執筆の打診をいただいた際に、ふと「兎と亀」のメタファーが頭をよぎった。「そっか、自分は研究者としては優秀じゃないし、兎みたいに速く走れる訳ではないけど、せめて亀のように地道に歩く（研究する）よ

うにしないといけないな」と思ったのであった。しかし、得てして研究という営みは、暗闇の中を歩くようなものである。地道に歩いたとしても、その先が崖だったなんてこともしばしばある。しかし、暗中模索しながらその先にある光を見出すことが、研究の面白さなのかもしれない。

\*\*\*\*\*

これもやはり私事となってしまうが、2022年度から本学会で若手活性化委員会の委員を仰せつかり、まもなく2期4年の任期を全うしようとしている。執行部の先生方のご尽力もあり、この4年で本委員会主催の企画への参加者数は増加の一途を辿っている。ペーパーの委員である私には何か大きな仕事ができたとような自信や実感は全くないが、企画に参加してくださった先生方とコミュニケーションを取り、縦や横の繋がりを作ったぐらいのことはできたのではないかと自己評価している。そこで出会った先生方と話をしていると、まさに暗闇の中を彷徨っているんだろうなと感じることもしばしばある。しかし、そのような状況は、本委員会の企画に参加している方のほぼ全員が経験しているのではないだろうか。少なくとも、私は何度も暗闇の中を彷徨ってきたし、その度に忸怩たる思いもしてきた。「自分は兎だ」と自負される方は本委員会だけにとどまらず、多方面で活躍されることを願うばかりだが、「自分は亀だ」と思い悩んでいる方は是非一度、本委員会の企画に参加していただきたい。暗闇を彷徨っているのは自分だけではないということが実感できる（かもしれない）し、そういった思いを共有することが仲間意識を生み、継続的な学会参加につながるからである。そして、願わくば私自身もその輪に加わり、暗闇を伴走する存在でありたいと思う。それこそが、私にとって「初心」を忘れない方法なのだと思う。

---

## 2025 年度第 2 回編集理事会報告

2025 年度第 2 回編集理事会は、2026 年 3 月 4 日に、オンライン会議システム Zoom を利用した遠隔会議で開催された。まず、投稿論文における生成 AI 等の利用の取り扱いに関する方針及びオープンアクセスジャーナル化に向けた基本方針を設定することが決定された。続いて、特集「学会創立 50 周年記念（2026 年 6 月発刊予定）」（第 50 巻，第 2 号）の編集状況，特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究（2026 年 12 月発刊予定）」（第 50 巻，第 4 号）の準備状況，「科学教育研究」全体の編集状況などが報告された。

次回の編集理事会は、2026 年 5 月下旬から 6 月上旬に、遠隔会議での開催が予定されている。

1. 新規投稿論文 (2026.2.1～2026.3.31) : 39 編

【内訳】

和文 39 編

英文 0 編

2. 査読中論文 (2026.3.31 現在) : 56 編

【内訳】

著者に差し戻し中 (受付前) : 5 編

担当編集委員選出中 : 12 編

査読者選出中 : 2 編

査読者諾否待 : 1 編

査読中 (1 回目) : 11 編

担当編集委員による第 1 審総合判定中 : 4 編

改訂稿待ち : 10 編

査読中 (2 回目) : 2 編

担当編集委員による第 2 審総合判定中 : 6 編

編集委員長による最終判定中 : 3 編

3. 掲載決定論文 (2026.2.1～2026.3.31) : 6 編

【内訳】

研究論文 : 6 編

総説・展望 : 0 編

資料 : 0 編

プラザ : 0 編

【合計】

50-2 号 : 6 編 (通算 8 編)

50-3 号 : 0 編 (通算 0 編)

4. 投稿状況及び掲載決定状況の推移 (2022.3.1~2025.3.31 現在)

(2025年3月31日 現在)

	新規投稿論文数 (編)		審査中 (編)		掲載決定論文数 (掲載号)		掲載不可論文数 (見なし取り下げを含む)	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	取り下げ
2022年 3月	17	0	29	0	5 (46-2) 1 (46-3)	0 (46-2) 0 (46-3)	5	1
2022年 4月	15	0	38	0	0 (46-2) 0 (46-3)	0 (46-2) 0 (46-3)	5	1
2022年 5月	7	0	40	0	0 (46-2) 1 (46-3)	0 (46-2) 0 (46-3)	4	0
2022年 6月	8	0	44	0	1 (46-3) 0 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	3	0
2022年 7月	4	0	31	0	1 (46-3) 7 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	9	0
2022年 8月	11	0	28	0	0 (46-3) 4 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	8	1
2022年 9月	4	0	21	0	0 (46-3) 9 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	2	0
2022年 10月	11	0	25	0	0 (46-4) 0 (47-1)	0 (46-4) 0 (47-1)	6	1
2022年 11月	12	0	31	0	0 (46-4) 1 (47-1)	0 (46-4) 0 (47-1)	4	1
2022年 12月	6	0	34	0	1 (47-1) 0 (47-2)	0 (47-1) 0 (47-2)	2	0
2023年 1月	7	0	30	0	2 (47-1) 0 (47-2)	0 (47-1) 0 (47-2)	9	0
2023年 2月	8	0	31	0	0 (47-1) 4 (47-2)	0 (47-1) 0 (47-2)	3	0
2023年 3月	17	0	35	0	5 (47-2) 0 (47-3)	0 (47-2) 0 (47-3)	8	0
2023年 4月	19	0	48	0	1 (47-2) 0 (47-3)	0 (47-2) 0 (47-3)	4	1
2023年 5月	11	0	43	0	0 (47-2) 3 (47-3)	0 (47-2) 0 (47-3)	11	2
2023年 6月	6	0	41	0	3 (47-3) 1 (47-4)	0 (47-3) 0 (47-4)	4	0
2023年 7月	5	1	39	1	1 (47-3) 2 (47-4)	0 (47-3) 0 (47-4)	3	1
2023年 8月	8	0	36	0	0 (47-3) 5 (47-4)	0 (47-3) 0 (47-4)	7	0
2023年 9月	4	1	29	1	6 (47-4) 0 (48-1)	0 (47-4) 0 (48-1)	5	0
2023年 10月	18	0	36	1	5 (47-4) 1 (48-1)	0 (47-4) 0 (48-1)	5	0
2023年 11月	20	0	53	1	0 (47-4) 0 (48-1)	0 (47-4) 0 (48-1)	1	2
2023年 12月	4	0	52	1	1 (48-1) 0 (48-2)	0 (48-1) 0 (48-2)	4	0
2024年 1月	7	0	51	1	0 (48-1) 0 (48-2)	0 (48-1) 0 (48-2)	6	2
2024年 2月	13	0	53	0	2 (48-1) 2 (48-2)	0 (48-1) 1 (48-2)	7	0
2024年 3月	21	0	55	0	5 (48-2) 0 (48-3)	0 (48-2) 0 (48-3)	5	4
2024年 4月	26	0	56	0	6 (48-2) 3 (48-3)	0 (48-2) 0 (48-3)	15	1
2024年 5月	10	0	43	0	1 (48-3) 1 (48-4)	0 (48-3) 0 (48-4)	17	1
2024年 6月	9	0	42	0	0 (48-2) 5 (48-3)	0 (48-2) 0 (48-3)	5	0
2024年 7月	7	0	41	0	1 (48-3) 1 (48-4)	0 (48-3) 0 (48-4)	5	1
2024年 8月	3	0	31	0	0 (48-3) 7 (48-4)	0 (48-3) 0 (48-4)	6	0
2024年 9月	2	0	21	0	0 (48-3) 5 (48-4)	0 (48-3) 0 (48-4)	7	0
2024年 10月	19	0	32	0	2 (48-4) 1 (49-1)	0 (48-4) 0 (49-1)	5	0
2024年 11月	13	1	34	1	0 (48-4) 2 (49-1)	0 (48-4) 0 (49-1)	9	0
2024年 12月	2	0	28	1	0 (48-4) 1 (49-1)	0 (48-4) 0 (49-1)	7	0
2025年 1月	9	0	27	0	0 (49-1) 0 (49-2)	0 (49-1) 0 (49-2)	10 (うち英文1)	1
2025年 2月	10	0	32	0	2 (49-2) 0 (49-3)	0 (49-2) 0 (49-3)	2	1
2025年 3月	7	0	32	0	5 (49-2) 0 (49-3)	0 (49-2) 0 (49-3)	2	0

### 広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 277 号をお届けします。一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事： 大貫麻美（白百合女子大） 向 平和（愛媛大）

委 員： 内ノ倉真吾（鹿児島大） 辻山洋介（群馬大） 舟生日出男（創価大）  
中村大輝（宮崎大） 日下智志（鳴門教育大） 増田有紀（埼玉大）  
袴田綾斗（愛知教育大）

幹 事： 谷塚光典（信州大） 村田翔吾（日本体育大） 後藤みな（山形大）

科学教育研究レター編集 日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□ 事務局 中西印刷（株） 学会部 内

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse \[at mark\] nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□ 編集事務局（論文投稿・査読編集）

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen \[at mark\] nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 一般社団法人日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2419484 一般社団法人日本科学教育学会